

4. 1. 30

理工ニュース No. 11

日本理工学部
教授会

授業再開宣言される - 1月26日学部集会 -

1月26日(日)午後1時30分から千葉県習志野校舎で学部集会が行なわれた。この集会は1月28日の予備折衝(別掲)以来1月9日、15日、19日と再三再四にわたって理斗委と交渉(別掲)の結果ようやく実現したものである。当日は雨もよいの空気が伝わったが、理工学部の存亡をかけた集会であることを自覚した学生諸君は統々とつめかけ、定刻すでに3,000人を越し、最終的には約5,500人と推定された。途中の誘導と会場の設営もほぼ完全で、それに当たった教職員全員の集会の成功を願う熱意がうかがわれた。

この朝に理工学部1号館へ強制捜索のため機動隊が立ち入った不幸な事態(別掲)と重なったため、集会の成りゆきが心配されたが、出席学生諸君の理性と良識によって、ほとんど混乱なしに5時半内海学部長代行補佐によって散会を宣言されるまで無事に進行した。

集会は理闘委諸君の教授会の自主運営方針に対する批判と機動隊立ち入りに対する抗議に始まった。このよりの議事進行に対して、12月28日の予備折衝以来問題があることを教授会は知っているが、それをあえて認めた理由は、あくまで学生諸君自らの意見の盛り上りを期待しているためであった。

このあと木村学部長代行は演壇に立って、つぎの重要な発言を行なった。すなわち、12月

16日ならびに1月23日の学生諸君に呼びかけたパンフレットの趣旨にもとずき、学生諸君が1人でも希望するならば、それに答えるべき教授会の責任を感じて、授業を早急に再開する旨の宣言であった。この宣言によって昨年9月9日、新聞紙上に公示した授業再開延期は取消されたことになった。なお、詳細は追って発表することとつけ加えられた。

これとともに、木村学部長代行は、当日朝の機動隊立ち入りと去る1月18、19日の駿河台附近における事態に関連する東京地裁の捜索令状にもとずく捜索であったため止めむを得ず立ち合ったことを説明した。

木村学部長代行の授業再開宣言に対して、出席学生諸君の反応は、その後の発言などと併わせて判断すると、ほぼ大多数は承認したものと認めてよい状態であった。機動隊立ち入りに対する説明に対しては、いくらかの反発もあったが強いものとは認められなかった。

この後理闘委以外の学生諸君の発言が行なわれ、ほとんど全部授業再開を要する声であった。しかし、さらに多くの学生諸君が発言を希望していたことは明らかであつたにもかかわらず、理闘委諸君が議事進行をリードしていた傾向が強く、それに時間的制約もあって、充分に見解発表が行なわれたとはいえない。それにもかかわらず、学部長職員と学生諸君の間に理解と永続する日大民主化への決意が発生した点で、この集会は成功であり、歴史的なできごとであったといつてよい。